

## ただいま整理作業中！甕塚古墳⑤



今回の特集は、甕塚古墳（岩井）の整理作業紹介の第5弾です（※）。昭和34年に発掘調査をおこなった、甕塚古墳の報告書の完成・公表を目的とし、令和元年度から継続して整理作業をおこなっています。その作業でわかったことを紹介します。

（※）第1～4弾 文化財だより第184号、200号、214号、228号



バックナンバー 228号

### 甕塚古墳とは

- ①6世紀初め頃、県内で最も早く横穴式石室（※1）が設けられた。直径約26mの円墳とされ、市内で唯一石棺が見つっている。
  - ②長さ6.4m、幅2.85m、高さ1.95mの石室内と墳丘から、須恵器という窯で焼いた硬い土器や土師器という素焼きの土器が多量に出土していて、日常的な器のほかに、県内でも数少ない儀式用の須恵器が多く含まれている。
  - ③古墳の上から円筒埴輪の列や埴輪棺（円筒埴輪を棺に転用したもの）が出土したほか、石室内からも形象埴輪を含む多数の埴輪が出土している。
  - ④石室内から甲冑や武器・馬具（※2）など、多量の金属製品が出土している。馬具などの一部は、金銅装（鉄製の本体に銅の板が貼られ、金メッキが施されている）である。
- 以上のことから、当時の静岡県西部で最も有力な首長の墓と考えられます。

（※1）横から穴を掘って造る石室 （※2）馬につける器具

### 「盾持ち人埴輪」だった！

214号で紹介した、盾形埴輪と円筒埴輪の別の個体とされていたものを、令和5年度に一度解体して復元修理（再接合）をおこなった結果、盾持ち人埴輪であることがわかりました。

大きさは、高さ82cm、幅41cm、奥行き最大28cmあり、矢などを防ぐ盾と、それを持つ人の胴体を円筒埴輪と同じように表現し、接合しています。上部に本来は頭があったと思われませんが、欠損しています。頸にあたると思われる部分には、小さい孔があいています。



甕塚古墳の盾持ち人埴輪（右は、右側側面）

## 盾持ち人埴輪とは？

盾持ち人埴輪は、円筒埴輪の前に盾を表現し、上部に頭部（顔または冑<sup>かぶと</sup>）を表現しています。

本来は古墳の周囲や石室の入口に置かれ、魔除けとして葬<sup>ほうむ</sup>られた人を守る、いわばガードマンの役割をもっていたと考えられています。

人を模してはいますが、祭祀を表すほかの人物埴輪とは異なる役割と考えられます。



茨城県・つくば市出土盾持ち人埴輪  
(写真：東京国立博物館デジタルコンテンツより引用)

## 東海西部域で初めての確認！

盾持ち人埴輪は、福島県から鹿児島県で120基ほどの古墳から見つっていますが、地域に偏りがあり、その2/3以上は関東（特に北関東）の古墳からです。また、近畿地方や中国地方東部、九州から多く出土しています。

静岡県では、伊豆の国市で2例（多田大塚6号墳（造り出しのある円墳）と駒形古墳（前方後円墳））がありますが、伊豆を除く東海地方では初めての確認例となります。



伊豆の国市の盾持ち人埴輪  
(左：多田大塚、右：駒形古墳 写真提供：伊豆の国市)

## 甕塚古墳のものは、近畿地方の影響を受けている！

盾持ち人埴輪の盾部分には、のこぎりの歯のような文様が描かれていることが多いのですが、甕塚古墳の盾部分には、三重の半円のような文様が描かれています。

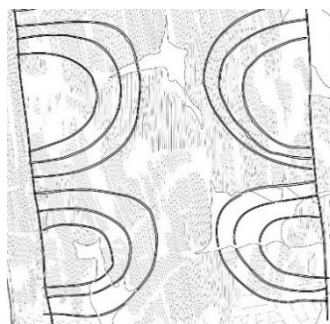
これとよく似た文様が、奈良県田原本<sup>たわらもと</sup>町<sup>ちよう みやこひらつか</sup>の宮古平塚古墳から見つかった靴形埴輪<sup>ゆきがた</sup>にあります。靴は矢の入れ物です。また、円筒埴輪の作り方も奈良県付近のものによく似ています。

伊豆の国市の2例は、盾持ち人埴輪の頭部付近が見つっています。これらは、埼玉県古墳から出土したものによく似ていて、関東の影響を受けたと考えられます。

これに対して、甕塚古墳のものは、当時の政治の中心地である近畿地方の影響を受けたものと考えられます。



茨城県・つくば市出土盾持ち人埴輪 盾部分  
(写真：東京国立博物館デジタルコンテンツより引用したものを拡大)



甕塚古墳の盾持ち人埴輪 盾部分（実測図）



奈良県・宮古平塚古墳の靴形埴輪  
(写真提供：田原本町教育委員会)

## なぜ頭部がない？



石棺と埴輪が出土した様子（昭和 34 年）

甕塚古墳の石室内からは、石棺が見つかっていません。その下からも土器（須恵器）が見つかることから、石棺に葬られた人はこの古墳に最初に葬られた人ではなく、2番目以降の人ということがわかります。横穴式石室は、入口を一度とじて2度目以降の人も葬る（これを追葬と言います）ために開けることができるようになっています。

最初に葬られた人は、甕塚古墳を造らせた人で、築造時に石室の入口付近に立てられた盾持ち人埴輪が、何年か経った後に抜き取られ、石室内に置かれたと考えられます。棺として再利用された可能性もあり、その際に頭部が失われたのかもしれませんが。

なお、石室内から出土した多量の須恵器が作られた年代は、6世紀の初め頃から終わり頃までの100年くらいの幅があります。石室内に葬られたのは複数人であるようで、これらのほかにも、墳丘上からも円筒埴輪を転用した棺が見ついています。

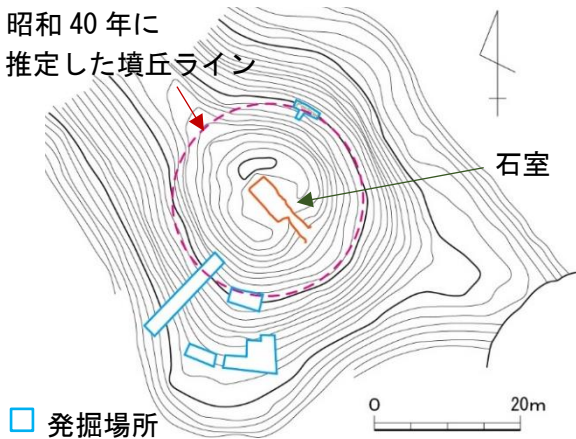
また、甕塚古墳の盾持ち人埴輪は、頭部がないため顔はわかりませんが、大阪府高槻市の今城塚古墳から、顔の部分に孔があいた甲冑形埴輪が出土しています。頭部はこうしたものだったのかもしれませんが。



大阪府・今城塚古墳の甲冑形埴輪（写真提供：高槻市立今城塚古代歴史館）

## 甕塚古墳は、単純な円墳ではなさそう！

盾持ち人埴輪が出土する古墳は、単純な円墳であることはほとんどなく、造り出し（出っ張り）がある円墳や方墳で、前方後円墳も多数あります。甕塚古墳は、副葬品に金銅装の馬具が多く含まれていることも合わせて考えると、少なくとも造り出しがあり、大きさももう少し大きいのかもかもしれません。古墳の形も再検討する必要があるようです。



甕塚古墳測量図（昭和 40 年）

### 古墳の形イメージ図



今後も甕塚古墳の整理作業は続きます。その成果や進捗は文化財だよりで紹介していきます。お楽しみに！

## 盾持ち人埴輪を公開します！

場所 磐田市埋蔵文化財センター トピック展示コーナー（磐田市見付 3678-1）  
期間 8月1日（木）～9月30日（月）休館日 8/11・12、9/16・22・23  
時間 8時30分～17時

## 第6回 見付宿歴史講座

# ～国登録有形文化財(建造物)登録記念講演会～

見付地区にある、新たに国登録有形文化財となった建造物『大橋酒店奥蔵・新蔵』『<sup>さぎさか</sup>匂坂家住宅(鶴屋本店) 隠居部屋・文庫蔵』について講座をおこないます。

2024年8月18日(日) 13:30～16:00

ワークピア磐田【多目的ホール】磐田市見付 2989-3  
※車でお越しの際は、ワークピア磐田の駐車場をご利用ください

### ■講座内容

- ・登録建造物の概要 持塚和宏氏(見付宿を考える会事務局長)
- ・登録された建造物の匠の技と魅力 新妻淳子氏(静岡文化芸術大学准教授)
- ・講師からのボイスメッセージ 西村幸夫氏(國學院大學観光まちづくり学部長)

■定員 100人(申し込み多数の場合は抽選) ■参加費 無料

■申込 8月5日(月)までに文化財課へFAX、または右二次元コードから申し込み

■問合せ 文化財課 電話 0538-32-9699 FAX 0538-32-9764



- ①大橋酒店奥蔵
- ②大橋酒店新蔵
- ③匂坂家住宅(鶴屋本店) 隠居部屋・文庫蔵



## 職員リレー コラム

### 石山寺

### 安藤 寛

今年の大河ドラマは紫式部が主人公で、滋賀県大津市にある石山寺が「石山詣」として時々登場します。『源氏物語』の構想を考えたのもこの寺といわれています。寺の名前は<sup>けいがいせき</sup>硅灰石(天然記念物)と呼ばれる岩石の上にあることに由来するとのこと。京阪石山寺駅から歩いて10分ほどと近いこともあり、私はこれまでに5回ほど訪れています。

大河ドラマは平安時代の西暦1,000年前後が舞台ですが、石山寺を建てようと思ったのは、奈良時代に大仏造営や国分寺の造営を命じた聖武天皇です。東大寺造営に関わった僧・良弁がこの地に草庵を建て、それを寺にしたという伝承があります。

石山寺は、東大寺に関連してその造営の様子が『正倉院文書』に残る稀有なお寺でもあります。東大寺造営には大量の木材が必要で、石山寺付近はその集積地であるとともに水運を使って東大寺まで運ぶ拠点でもあったことがわかります。

また、壁を白く塗るための白土を採取するために、20kmあまり北にあたる現在の津市<sup>まの</sup>真野というところに6人を3か月派遣したことなども記されています。白土が寺の造営に不可欠の材料であり、採取場所や方法を記録し、後世に伝える必要があったのかもしれない。私にとっては、様々なことを教えてくれるお寺です。



硅灰石とその上に建つ石山寺の多宝塔

編集後記  
私事ですが、今号は文化財だよりの編集を担当して100号目です。色々な思い出がありますが...。今後も読みやすい紙面になるよう努めていきたいと思ひます。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だよりに検索

